

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 39 週 2025 年 9 月 22 日 ~ 2025 年 9 月 28 日

今週のコメント

南丹保健所管内では、インフルエンザが流行レベル継続中です。

2025 年第 39 週の報告です。

○新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数は南丹 7.00(前週 6.75)、京都府 6.33(前週 7.77)となっています。

○インフルエンザの定点当たりの報告数は南丹 5.5(前週 3.50)、京都府 1.39(前週 1.23)となっています。

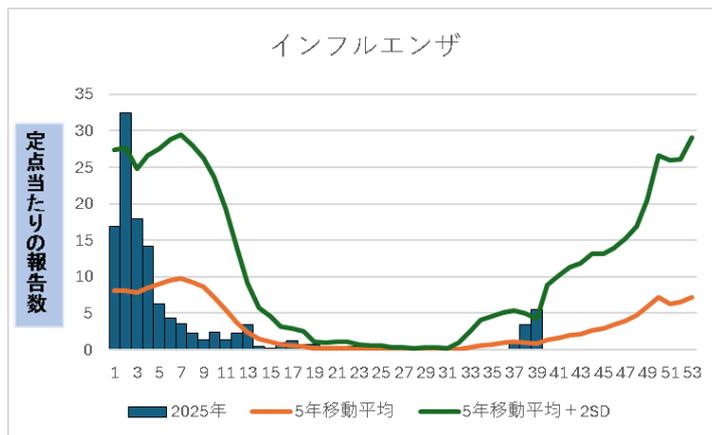
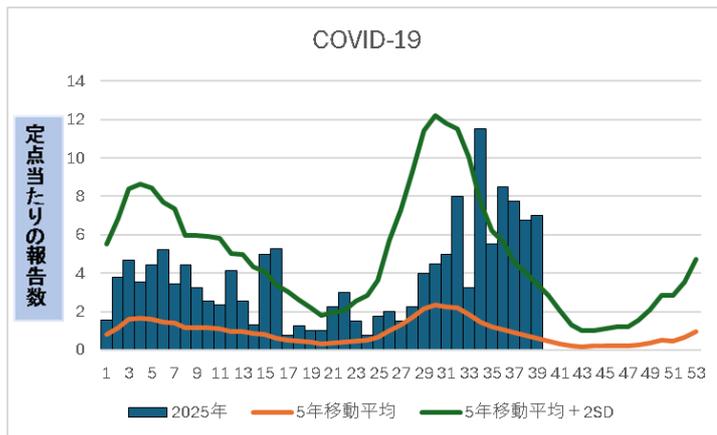
○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたりの報告数は南丹 2.0(前週 1.0)、京都府 2.67(前週 3.00)となっています。

○全国的に百日咳(全数報告疾患)の流行が継続しており、府内でも報告が続いています。第 39 週においては南丹保健所管内で 0 件(前週 0 件)、府内で 13 件(前週 16 件)報告されました。長引く咳には注意し、乳幼児は予防接種を確実にいきましょう。

京都府の百日咳に関する情報は[こちら](#)を確認して下さい。

百日咳に関する情報は[こちら](#)を確認して下さい。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

1 『5年移動平均』は、過去5年間の平均値の変化を表しています。

2 『5年移動平均+2SD』は、過去5年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

南丹保健所管内のインフルエンザの定点当たりの報告数は、5.5で京都府全体の中で最も高い数値となっています。また、第37週(令和7年9月8日~9月14日)より流行レベルが継続しています。例年、秋から冬に流行が始まり、冬にピークを迎え、春頃に収束するインフルエンザは、今の時期から適切な予防を行うことが大切です。

○インフルエンザとは？

インフルエンザウイルスに感染することで起こる感染症で、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、全身倦怠感等の症状は比較的急速に現れるのが特徴です。併せて、のどの痛み、鼻汁、咳などの症状も見られます。

○気を付けることは？

手洗い、うがい、手指消毒等を行うことや適度な湿度(50~60%)を保つこと、十分な休養とバランスの取れた栄養をとることなどがあげられます。また、流行時期は人混みや繁華街への外出を控えたり、不織布製のマスクを着用することも大切です。

また、インフルエンザワクチンを接種することは発症予防や重症化予防にもつながります。特に高齢者や基礎疾患のある方など、罹患すると重症化する可能性の高い方はワクチン接種をご検討ください。

各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R7.39w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	5.50	↗	3.50
新型コロナウイルス感染症				7.00	↗	6.75
RSウイルス感染症				0.00	→	0.00
咽頭結膜熱	3	1		0.50	→	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		2.00	↗	1.00
感染性胃腸炎	20	12		0.50	↘	3.00
水痘	2	1	1	0.00	→	0.00
手足口病	5	2		0.50	↗	0.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				1.00	↗	0.00
ヘルパンギーナ	6	2		0.00	↘	1.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第39週報告数は289件(定点当たりの報告数:72.25)でした。[京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期:(原則)毎週木曜日 14時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)